



HIGA NEWS

2021年11月 第58号

編集・発行 一般社団法人ひろしま通訳・ガイド協会 (HIGA)



会員の撮った1枚

2018年8月 徳島市阿波おどり



見てください！

夜空にパーンと咲いた花火のように明るい笑顔を！

これは、徳島県で開かれる阿波おどりの写真です。法被姿の女性たちの踊りは、周りの人を元気にする力にあふれていませんか。

「手を挙げて、足を運べば阿波おどり」。シンプルながらも奥深い踊りのファンになり、もうすぐ10年。HIGAの学習会でオンライン発表をさせていただきました。当日の内容については3ページの「第1回学習会 中四国のお祭りー祭祀、しきたり、習慣などー」の記事をご覧ください。

なお、阿波おどりと一緒にお遍路のお寺を訪れるのもお勧めです。

広島平和記念資料館前館長 志賀賢治氏のお話を伺って

英語会員 谷川 紀子



2021年度HIGA文化講演会が、9月25日にオンラインで開催されました。演題を「原爆がもたらしたものの、奪ったもの」とし、広島平和記念資料館前館長 志賀賢治氏にご講演いただきました。一般・会員合わせて129名の方が参加され、志賀

氏が収集されたスライドや動画とともに、体験に基づいた貴重なお話を伺いました。

畝崎雅子副会長の挨拶の後、元安川のデルタ地帯の航空写真を背景に、白髪に白いシャツがお似合いの志賀氏が画面に登場されました。氏は2013年から2019年までの6年間、平和記念資料館の館長を務められ、大規模展示更新工事の仕上げ総括をされたことをきっかけに、2020年に「本書が少しでも、『記憶』の伝え方を模索されている方たちの参考になれば」という願いから、『広島平和記念資料館は問いかける』（岩波新書）を出版されました。

講演の前半は、被爆資料、初代館長 長岡省吾氏の功績や写真家 石内都氏との出会いについて、後半は展示作業の総括、資料館の位置づけ等を中心に話が進められました。

2019年4月25日にリニューアルオープンした資料館東館地下の4つの収蔵庫の映像を示して、1955年の開館以来収集し続けている遺品は今や2万点に上り、保存に苦労していること（遺品は寄贈されたときの状態のままで保つために、薄葉紙という和紙で包み、アクリルケースや桐たんすで保存している）、原爆の絵は原画をすべて8Kカメラで複製しているが、劣化が進むのが課題であることなどを教えてくださいました。長岡氏は被爆翌日から焼け野原の中で、溶けた石や瓦などを収集し、被爆の実態を世界に知らすべく執念ともいえる献身的な活動で資料館の創設・普及に尽力されました。ま

た、石内氏が撮影した花柄のワンピースなどの被爆遺品の写真を見て、原爆が広島から奪ったものを後世へ引き継いでいくのが資料館の目的だと志賀氏は考えるようになりました。お二人との出会いは一番印象に残っているそうです。

展示更新に向けては①被爆者の視点から原爆の悲惨さを表現すること②実物資料により表現すること③一人ひとりの被爆者、遺族の悲しみ、苦しみを伝えることが重視されました。そのために、被爆者なき時代を見据えて展示品をすべて見直し「実物展示」に重きを置きました。被爆者、遺族の視点に立って、固有名詞を持った遺品を見ることで来館者に当事者感覚を持ってもらい、原爆が何を奪ったのか再確認してもらいたい、そして、「物言わぬ遺品」の問いをずっと考え続けていくスタート地点として資料館を使ってほしいと語られました。被爆再現人形の撤去については、ほとんどの人が見終えた後「怖かった」と恐怖を感じ、その他の展示の印象がほとんど残らなかったため、資料館を出た後もずっと考え続けてもらえるような遺品展示に転換されました。

事前にお届けしていた質問にも丁寧にお答えくださり、志賀氏がお持ちの知識の一つでも多く伝えたいという熱い思いが画面越しに伝わってきました。「100年後、ミュージアムはどうなっているのか？」という質問に、「歴史にしてはいけない。いま、この時代の我々が生々しい現実をとらえる工夫をしていかなければならない」と参加者だけでなく、今を生きる人々に警鐘を鳴らされました。「事実を伝えるのが使命」と真摯に活動されている志賀氏のお話を伺い、我々はこれから先どのように「記憶」を伝えていけばよいのか改めて考える機会をいただきました。お忙しい中、講演をお引き受けくださった志賀氏に心よりお礼を申し上げたいと思います。

HIGAの活動報告（2021年6月～10月）

【会員対象オンライン研修】

- ・6月 6日（日）「中四国のお祭りー祭祀、しきたり、習慣などー」
- ・6月13日（日） 通訳ガイド実務新人研修
- ・6月19日（土）「大聖院ここが面白い」
- ・7月17日（土）「江田島バーチャルツアー」
- ・8月 1日（日）「リック先生の宮島白熱講座」
- ・9月 5日（日）「ヒロシマはどう伝えられてきたのか」
- ・10月2日（土）「盆栽アート」

【会員・一般対象 オンライン講演会】

- ・9月25日（土）文化講演会「原爆がもたらしたものの、奪ったもの」

講師： 志賀 賢治氏（広島平和記念資料館前館長、
広島大学原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部客員教授）

参加者： 一般69名、会員60名、合計129名

会員対象オンライン研修 「第1回学習会 中四国のお祭りー祭祀、しきたり、習慣などー」

疾走鬼と一緒に、手を挙げ、足を運んでコロナ退散

英語会員 小林 洋子

「疾走する鬼マッカ」に「阿波おどりで元気に！」。なんとも興味をそそるタイトルが並ぶ学習会の案内に、迷わず参加を決めました。果たして期待を裏切らない素晴らしい内容。野田早苗会員の平安期にまで遡る歴史背景を交えた奥の深い話はグイグイと私たちを引き込んでくれます。広島湾東岸一帯の祭りにはマッカ（真っ赤）鬼に似た鬼が登場するそうです。祭りを担う小屋浦青年団のチームワークは2018年水害救助時に大いに発揮されたとのこと。地域の祭りとは持続可能な社会構築に不可欠なものだと思いました。安友昭子会員の素晴らしい発

表にも元気を頂きました。阿波おどりをみるポイント、お勧めの連など、ガイドとして有用な情報もたっぷり。最後は「皆さんご一緒に！」の声掛けで参加者は踊る阿呆になりました。

休憩後、ブレイクアウトルームへ移動。今度は参加者の発表タイム。マイクもカメラもオンにして会員同士の交流です。参加者全員が2分未満で各地域の祭り紹介。40分があつという間。改めて日本には素晴らしい地域の祭りがあると知りました。水野彩会員の一本締めで終えたこの研修、最後まで参加型オンライン研修でした。

会員対象オンライン研修「通訳ガイド実務新人研修」

2021年度 新人研修に参加して

英語会員 西川 地江子

直前まで現地で行われるはずだった新人研修が、非常事態宣言のため急遽オンラインでの研修になった。6月13日、参加者は8名。それぞれ事前に指定された箇所（宮島と平和記念公園）のガイドングを披露し、その後、講師の方々にアドバイスをいただくという大変勉強になる研修だった。本来なら現地で喧騒に紛れて声が届かなかつたりする可能性もあるが、オンラインで快適に他の参加者の方々のガイドングを聞くことができ、非常に有益だった。また、パワーポイントを使って、それぞれの担当箇所やそこまでの道のりにある紹介スポットの写真を共有したので、臨場感もあった。私の場合、ガイドングは事前に準備した通りにはいかなかったが、丸暗記に頼るのではなく、ポイントを箇条書きにしておくなど、新たな気づきも得られた。面白いと思うことを自分なりの目線で

話せば良いと助言を受けた。個性を生かし自分なりのガイドングができるよう研鑽を重ねていきたい。

ガイドングだけでなく、講師の方からは通訳ガイドの心得など丁寧に説明を受けた。ツアーはオペレーション（旅程管理）が成功のカギになるということなど事例を挙げて説明してくださった。食事はアレルギーなど命に関わる可能性があるのも、事前によく聞いておかなければならない。何よりも人数確認はしっかりしないといけない。置き去りにしたら一大事だ。

最後に質疑応答があった。和気あいあいとした雰囲気でも質問もしやすく、あつという間に終了時間となった。この研修がいつか生かせるような日々が来ることを祈り、コロナ禍を乗り切りたいと思った。

会員対象オンライン研修「第2回学習会」

「ヒロシマはどう伝えられてきたのか」に参加して

英語会員 藤井 陽子

9月5日、オンラインで第2回学習会が開催されました。

最初の発表は、小泉直子会員の「マンハッタン計画の概要～意思決定の経過をたどって～」でした。小泉会員のポイントを押さえた的確な説明に聞き入りました。提示していただいた原文資料は示唆に富む内容で、改めて読んでみたいと思います。次は中村朋子会員の「核時代の論争～アメリカ社会に見る原爆観の溝」。原爆神話が根強く残る一方、相手への共感をもって歴史に接することが大切と信じる米国人が増えているというお話に、私たち自身もそうした姿勢で自国の歴史に向き合わなければと思いました。最後は、原森泉会

員の「公開されなかった『原爆小頭症』情報～母、山内幹子の足跡を辿る～」。お母様の足跡と共に、原爆小頭症の方たちの歩みを丁寧に説明していただきました。多くの方たちのねばり強い陳情や交渉があったことを知り胸が熱くなりました。

発表していただいた3名の方々、4月から準備のための読書会を立ち上げ尽力くださったお世話係の皆様、運営を担ってくださった皆様に感謝申し上げます。「ヒロシマがどう伝えられてきたのか、そして今後どう伝えていくか」という難題に自分なりの答えを出せるよう今後も学び続けていこうと思います。

会員対象オンライン研修「リック先生の宮島白熱講座」

「リック先生の宮島白熱講座」を受けて

英語会員 恵南 一子

HIGA初のオンライン有料講座は、リック先生ことRichard Weber氏を講師として英語で開催され、100名近い参加者がありました。リック先生と宮島との出会いは1981年、以来40年間に110回以上訪れたとのことでした。



講座の始まりはリック先生お気に入りのコースの紹介です。要害山から街を俯瞰し、表参道が海の底だった頃に参詣者が歩いた最古の参道

「山辺の古径」をたどります。今も古くからの民俗信仰・風習の中で暮らす人々の生活が見られます。撮影スポット、古刹、土産物店などを見て最後は「みやじま杜の宿」で入浴し疲れを癒します。

その後、事前に配布されていたガイド原稿に沿って、石鳥居・石灯籠・大鳥居・神社など定番の観光スポットのガイディングです。自分の経験を話したり、お客様の国の歴史的出来事と年代を結びつけるなどの工夫を聞きました。またお客様に神仏の礼拝を強要しないとか、神道の神はgod(s)で仏教の仏はdeityであるなど、国際常識や英語表現を習いました。さらにQ&Aが続き、2時間では汲み尽せないリック先生の豊富な知識を垣間見ました。

HIGAのオンライン研修では、合間に流される会員制作の動画が回を追うごとに洗練され面白くなっていくのも今後の楽しみです。

会員対象オンライン研修「江田島バーチャルツアー」

『江田島本』をめぐる旅

英語会員 三上 淳子

江田島は近年、新たな観光地として注目されている。タイムリーに企画された本研修は、島の歴史継承を考えることをテーマに実施された。発表は、丸古玲子氏の『江田島本』に倣い、島全体の形を「爪をふり上げたザリガニ」と表現し、この著書に紹介された遺跡、寺社、施設などを分かりやすく説明するなど、発表者の見事な連携プレーが展開された。

最も印象的だったのは、各発表者が丸古氏の「歴史的に価値あるものは、ただ古いから残すのではない。そこにある時間や物語を大切にすべきだ」という思いをしっかりと理解し、さらにガイドならではの深い考察を加えて紹介したことだ。江田島に多くの戦争遺跡が存在する理由、また隠されたマルレ慰霊碑についての事実に関連した問いが設定され、実は原爆供養塔にその答えのヒントがある、との発表もあった。これに限らず、どの発表も深く掘り下げられた

素晴らしい内容であった。紙幅の都合ですべてを取り上げられないことは残念である。

研修には、丸古氏本人をはじめ、島の歴史や観光に深く関わってこられた「ぐるぐる海友舎プロジェクト」代表の南川智子氏や江田島市交流観光課の尾上元気氏も参加し、貴重な生の声を聞くこともできた。近くて遠い存在だった江田島への心理的距離が縮まった2時間であった。



「江田島本」丸古玲子著
ちょうちょ人間 刊

広島平和記念公園対岸
元安橋たもとのオープンカフェ

Caffè Ponte
カフェ・ポンテ

【住所】広島市中区大手町1丁目9-21
【予約専用電話】082-247-7471
年中無休

大正十四年創業

宮島藤い屋

〒739-0588 広島県廿日市市宮島町 1129
TEL 0829-44-2221 FAX 0829-44-2022
オンラインショップ <http://www.fujiya.co.jp>

会員対象オンライン研修 「大聖院ここが面白い」

三者で乗り越えた神仏分離

6月19日に開催されたマニュアルグループ主催のブラッシュアップ研修「大聖院ここが面白い」は宮島の大聖院を多彩な視点から考察する研修で、本当に勉強になりました。中でも吉田大裕（だいう）副住職のご講話からは改めて気づかされる事が多く、厳島の歴史のキーワードとも言える「神仏習合」の話が特に印象に残りました。

神仏習合においては、「神は仏法を擁護する一方、人間的な煩悩を持っており、仏法による解脱を求めている」と考えられていました。聖武天皇は疫病の大流行・飢饉の際に、奈良の大仏様を建立しました。（天照大神を祖先に持つ天皇も、仏教の力を借りようとしたということでしょうか）そして神は仏の権現（仮に現れた姿）であるとする本地垂迹説（ほんじすいじゃくせつ）には空海の影響が大きいと言われています。

厳島神社の本殿の真裏に観音菩薩の本地堂があり、その間にある開かずの門（国宝、不明門）は、吉田副住職によると本当の顔と化身の

英語会員 中川 俊昭



お話を伺った大聖院 吉田副住職

顔が決して対面しないようにするためとか。なるほどそうなのかと気づかされました。

江戸時代には、厳島神社が棚守、大聖院が座主、そして大願寺は寺社の修理造営を担当しました。この長年の三者の連携で明治の神仏分離を乗り越えたのです。五重塔、大経堂（千畳閣）、そして不明門が残されたのは本当に幸運でした。

神仏習合は、異国文化を受け入れる多神教の日本の寛容さを象徴するものでしょう。

会員対象オンライン研修「盆栽アート」

小林國雄氏「盆栽アート」セミナーを受講して

英語会員 菅田 カオル

10月2日に開催された研修旅行グループ主催のオンラインセミナーでは、東京都江戸川区の春花園盆栽美術館をオンラインで訪ね、同園園主である世界的に有名な盆栽作家 小林國雄氏のお話を伺いました。

我が家の近所に盆栽がずらりと並んでいるお宅があり、私も以前より盆栽に興味を抱いていました。お正月のテレビ番組でも、度々国宝級の盆栽が取り上げられ、小林氏のドキュメンタリーも拝見したことがあったので、今回の「盆栽」研修はとても楽しみにしておりました。

まず「盆栽アート」というタイトルを見た時に、まさに日本の誇るアートだと納得しました。さらに小林氏の直弟子でもある盆栽美術館館長 神（じん）康文氏の「盆栽は1つの鉢の中で生と死が共存している」とのお話はとても日本らしく思いました。また小林氏が盆栽に対して、「何百年、時には千年を超えて生きた木に命の尊厳を感じる」と言われ、氏の盆栽を見てみると私も画面を通してさえ、それを感じることができました。



小林國雄氏（左）と神康文氏

またお話をお伺いして、海外の方にとっては鉢植えと盆栽の違いは理解が難しいのではないかと感じ、そこが上手く説明できるようになりたいと思います。

今回の研修はとても興味深く、普段ではなかなか聞けないお話を伺え有意義でした。そして何よりも「愛」が大事！その通りですね。私も周りの人や日常に「愛」をもって過ごせたらと改めて思いました。

みやじまの宿

岩惣

〒739-0522 広島県廿日市市宮島町もみじ谷
TEL 0829-44-2233 <http://www.iwaso.com/>

僕かみの
ぱやし

おかげさまで七十二周年
宮島で一年中
生かきが食べられます

TEL 0829-44-0335

小豆島 アートがつなぐ人と記憶—ジョルジュ・ギャラリーを訪ねて

英語会員 豊田 泰子

小豆島の土庄（とのしょう）港から、二十四の瞳映画村方面に向かって車を走らせ20分程度でジョルジュ・ギャラリーに到着。昔ながらの醤油屋が集まる「醬の郷（ひしおのさと）」に近い場所だ。古民家の中に、瀬戸内国際芸術祭2019で制作された写真家ジョルジュ・ルースのインスタレーション（空間全体を作品とする現代美術の表現）がある。

季節の花が美しい石畳のアプローチから中に入ると、部屋の襖、欄間や畳にランダムに金箔が貼られている。何をどう見るのかと戸惑っているとギャラリーのオーナーが説明してくれた。ある一点の場所から見ると景色が一変するというのだ。その場所に座った途端、バラバラの金色のピースがつながり、目の前に大きな黄金の円が浮かび上がった。圧倒されて思わず「うわーっ」と声が出る。この家はオーナーである石井純氏の祖父母のお宅だったそうで、懐かしい思い出がアートとして残される喜びを語ってくれた。

ジョルジュ・ルースは取り壊される建物にペイントを施し写真化することで、永遠に残すと

いうコンセプトのもと活動している。そのため建物が残っているのはとても珍しい。石井氏は阪神・淡路大震災の後、ルースに依頼して倒壊寸前の建物をアートとして残すプロジェクトを企画。ボランティアの若者が参加し、人々の生活の記憶を残し、新しい建物を築く未来への希望を共有したことが同作品へと繋がったそうだ。



SHODOSHIMA 2018©GEORGES ROUSSE

作品鑑賞後、隣接のコヒラカフェで手作りのゆずジュースを堪能した。小豆島産の野菜や醤油を使った軽食もある。裏手には石井氏プロデュースの「醬の郷現代美術館」があり、アートと食を楽しめる素敵な場所になっている。

【ご協力ありがとうございます】

~ with sincere thanks ~

HIGA賛助会員の皆様（2021年11月現在 順不同、敬称略）

団体会員： 広島紅葉ライオンズクラブ 広島商工会議所 広島トヨペット（株）
 （有）はやし JTB協定旅館ホテル連盟広島支部 つばめ交通（株）
 （株）藤い屋 （一社）広島県観光連盟 カフェ・ポンテ 岩惣
 広島県民文化センター あいおいニッセイ同和損害保険（株）

個人会員： 古谷 英明 延本 真栄子 吉中 康磨 嘉屋 基一 藤井 倫子
 清水 憲吉 辻 孝和 吉井 敏弘 河野 博行 海生 直人
 くらわんか 青野 重信 藤井 芳子 田島 謙治 花やしき

賛助会員としてご協力くださる団体、個人の方を募集しています。ぜひこの機会に入会をご検討くださるようお願いいたします。年会費は一口につき団体会員2万円、個人会員5千円です。団体会員には、HIGAニュースに広告掲載の特典があります。

お申込み、お問合せは当協会事務局 082-243-8346（月～金 11:00～14:00）まで。

※現在新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応のため、事務局受付時間を短縮しております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。



本誌へのご感想・ご意見をお寄せください。HIGA事務局へFAX・Eメール: higa@urban.ne.jp どうぞ。

【表紙の写真・文】安友 昭子（中国語会員）

【編集後記】平和記念公園のあちこちで修学旅行の団体等を見かけるようになりました。観光地は活気を取り戻しつつあります。コロナ禍においても研修や自主勉強でじっくりと知識を深め、ガイドングの実力を高めてきたHIGA会員が、世界各国からのお客様を笑顔で案内できる日が早く来ますように。（たみ）

 **つばめ交通株式会社**

〒732-0066 広島市東区牛田本町 4-5-10

配車センター 082-221-1955 

<https://www.tsubame.co.jp/>

賛助会員募集中

インバウンド観光の振興に熱心をお持ちの団体・個人の皆様 ぜひご入会ください!

(一社) ひろしま通訳・ガイド協会 (HIGA)
 TEL 082-243-8346